

平成29年9月6日

保護者の皆様

白山市立鳥越小学校
校長 森本 巖

平成29年度「教育活動についてのアンケート」の分析（7月実施分）

新涼の候、皆様いかがお過ごしでしょうか。7月に行いました「教育活動についてのアンケート」へのご協力ありがとうございました。ご意見をもとに児童評価・教師評価と合わせ、分析および後期に向けての取り組みの検討を行いました。概要をお知らせします。

本校の教育目標である『やさしく思いやりにあふれ、自他の健康安全を心がけ、確かに学ぶ子を育てる』の実現に向け、下記の5分野において取り組んでまいりました。

- | | |
|--------------------|-------------------|
| 1 信頼される学校運営 | 2 学力の向上（確かな学力の形成） |
| 3 道徳教育の充実（豊かな心の育成） | 4 体力の向上（健康な体の育成） |
| 5 開かれた学校づくり | |

※数値は「よくあてはまる」と「あてはまる」の合計（ ）は「よくあてはまる+あてはまる」の割合です。

1 信頼される学校運営について

①学校は楽しいですか。	(児童)	94%	(64+30)
お父さんは学校に行くのが楽しいとっている。	(保護者)	96%	(60+36)
児童が明るく元気に登校できるようにしている。	(教師)	100%	(50+50)

昨年度から引き続き、いいところ見つけ、みるみる週間、キラキラファイルなど自己肯定感を高める取り組みを続けてきたことで、不登校の児童は見られません。また、とても楽しいと感じている児童、保護者が60%を超えており、元気に登校している様子がアンケートからも伺えます。

○自己肯定感を高める取り組みを、常に効果を検証しながら続け、一人一人の児童の様子に気を配り、職員間で情報を共有する場を大切にしていきます。

②困ったことがあったら、先生に相談できますか。	(児童)	100%	(66+34)
学校はお子さんの事で悩んでいるとき相談にのってくれる。	(保護者)	95%	(41+54)



依然として相談できると答えた児童の割合が7割に満たず、教職員の意識づくりや相談箱の工夫など、改善を図っていく必要があります。それに対して、子どものことで相談に乗ってもらえると感じている保護者の方々の割合は95%と昨年度に比べかなり改善しました。

○児童には、担任教師に限らずいろいろな教員に相談できる環境づくりについて検討し、取り組んでいきます。保護者の皆さんには、学校での出来事など連絡を密にとる。「話しやすい」「相談しやすい」環境を作っていきます。

③授業は、わかりやすいですか。	(児童)	93%	(63+30)
お父さんは、学校の授業が分かっている様子だ。	(保護者)	88%	(38+50)
分かりやすい授業を工夫している。	(教師)	100%	(36+64)

昨年度末に比べ、授業がわかりやすいと答えた児童の割合が増えており、CやD評価をつける児童も減り、わかりやすい授業を心がける取り組みが効果を上げていると伺えます。

○授業が分かっていると保護者の方々にも実感してもらえるよう、理解度や定着度をきちんと見取り、

定着が不十分な場合には個別指導や宿題で補充するなどして素早く対応していく。児童が「できた」と感じられる声かけや評価場面を意識して授業を工夫するなど、学習内容の定着をさらに図っていきます。

2 学力の向上(確かな学力の形成)について

④勉強した事を文や図にかいて考えたり説明したりしていますか。(児童) 85%(58+27) 児童は学んだ事を文や図などを使ってまとめたり説明したりしている。 (教師) 90%(20+70)
--

○「何を」「どのように」書く(説明する)とよいのか、具体的に示しながら書き方や伝え方を指導することを継続しつつ、何ができれば(どうなれば)よいのか、ゴールの姿をより分かりやすく児童に伝えていきます。児童の考えをその場で評価したり、ノート等を評価したりして、児童が「できた」達成感を味わえるようにしていきます。

⑥家庭学習の手引киに書いてある時間家庭学習をしていますか。(児童) 94%(72+22) お子さんは、家庭学習の習慣が身についている。(保護者) 83%(33+50) ご家庭では配布した家庭学習のてびきを基にお子さんに声かけをしている。 (保護者) 88%(34+54) 家庭学習の習慣化を進めるため家庭学習の手引きを活用し働きかけている。 (教師) 100%(33+67)

4月の総会や懇談会でお願いしたことで「家庭学習の手引き」の存在や内容が周知されてきているといえます。しかし、保護者の評価はまだB評価でAに到達していません。

○3回の家庭学習強化週間(2学期)を活用し、用紙に声かけのポイントをさらに分かりやすく記すなどしていきます。手引きを示しながらできているかどうか定期的に声かけ確認し、児童の意識を高めていきます。

3 向上心の向上(豊かな心の育成)について

⑦友達に対して思いやりの心で行動している。(児童) 94%(56+38) お子さんは思いやりの心で行動している。(保護者) 94%(50+54) 道徳の授業を要とした道徳教育の推進で児童に思いやりの心が育っている。 (教師) 82%(27+55)
--

特別活動を中心に、認め合う活動に力を入れてきた結果、少しずつ友達を大切に作る心が児童に育ってきています。自己有用感が高まることで自己肯定感が生まれ、よりよく友達と関わろうという姿勢と態度になっています。

○日々の授業で児童同士の共感的人間関係を育めるよう、教師・児童双方で意識していきます。また、児童の実態を把握しながら、思いやりの心と実践力が育つ道徳の研修を実施したり、日々の児童同士の関わりに対して教師が常にアンテナを高く保てるようにしたりすることに力を入れていきます。

⑧だれに対しても自分から挨拶をしていますか。(児童) 97%(73+24) お子さんは、家庭・地域の人に自分から挨拶をしている。(保護者) 85%(54+31) あいさつ等、児童の自発的な活動を促すような場の設定や指導を工夫している。 (教師) 100%(50+50)

児童会を中心に、あいさつ目標を掲げ、あいさつ運動にも毎日取り組んだことで、あいさつを自然に交

わす雰囲気が出ています。教師からではなく、児童から声を出そうとする姿が多く見られています。

○学校での取り組みを、学校だよりや学年だより、ホームページなどを通して、積極的に発信し、活動の様子だけでなく、児童の変容についてもよいところを伝えながら、家庭との連携をより図っていきます。児童を中心に進めているあいさつの取り組みについて、3つの目標をより意識して取り組んでいきます。人と関わる場面（校外・お客様・バスの乗り降りなど）を捉えて、具体的にどのようなあいさつが適切かを指導し、意識して取り組めるようにしていきます。

4 体力の向上(健康な体の育成)について

⑨体育の時間や他の時間に体をよく動かしていますか。 (児 童) 95%(77+18)

おさんは遊んだりスポーツをしたりして日ごろから体を動かしている。

(保護者) 88%(50+38)

体育の時間や他の時間の工夫で一人一人に体力がついてきている。

(教 師) 83%(33+50)



自由時間はグラウンドでサッカーや鉄棒、鬼ごっこなど多岐にわたって運動しており積極的に体を動かしている様子が見えます。運動する子としない子との二極化が進んでいるように思われます。

○委員会活動や外部大会への参加など、児童が活躍する場を捉え、運動が好きになるしかけ、働きかけを行います。体力アップ1校1プランの推進、スポチャレいしかわへの参加、長距離走の取組を通して、児童の体力向上を推進していきます。

⑩早寝・早起きなど規則正しい生活をしていますか。 (児 童) 85%(47+38)

おさんは規則正しい生活(早寝・早起き・朝ごはん)を送っている。

(保護者) 87%(33+54)

毎日の健康観察や清潔検査などにきちんと取り組ませている。

(教 師) 100%(70+30)

昨年度から生活習慣、特に睡眠について働きかけてきたが、まだまだ指導が十分とは言えない。

○保護者と連携し、一日の過ごし方について働きかける必要があります。また、メディアの影響、ネットトラブルも視野に入れながら、よりよい生活習慣をおくることができるよう、継続した取組が必要です。高学年には引き続き「元気カード」に取り組み、児童の生活リズムに対する意識を高めていきます。また、11月には全校児童及び保護者を対象に学校保健委員会を開催し、生活習慣、特に睡眠についてその重要性について考え、より規則正しい生活を送ることができるように支援していきます。

⑪好き嫌いしないで何でも食べていますか。 (児 童) 82%(52+30)

給食を時間通り残さず食べるように意識して指導している。(教 師) 100%(45+55)

給食指導は職員間で共通理解し、「残さず食べる」「決められた時間に食べ始め食べ終わる」ことを徹底し、給食時のお知らせなどに工夫がみられている。一方で、好き嫌いのある児童・食が進まない児童などが固定され、支援の必要な児童への働きかけが課題である。

○職員間の共通理解に基づいた給食指導は、今後も継続して取り組んでいきます。支援の必要な児童には、栄養教諭や保護者と連携しながら、嫌いな食べ物に配慮し、「ごちそうさま」を学校全体ですることによって時間内に食べ終わるように意識付けをしていきます。

5 開かれた学校づくり

- | |
|--|
| ⑫ 学校であったことを家の人とよく話しますか。 (児 童) 78% (52+26)
子どもの話や学校からのおたより等で学校の様子分かる。(保護者) 92%(52+40)
おたよりや連絡帳等で児童や学校の様子を随時お知らせしている。
(教師) 100% (58+42) |
|--|

昨年度末に比べ、保護者に児童自体が話しているという割合は減少しているが、お便りに加え、ホームページでの積極的な発信から保護者の評価は10%近く上昇している。

○児童の様子をおたより、ホームページで積極的な発信を継続していく。

学校関係者評価委員会より（学校評議員さんをはじめとした方々の会合で出された意見です）

1 信頼される学校運営について ※学校より

□大人から見ればちょっとしたことが子どもたち一人一人には大きな引っ掛かりになっていることもある。気をつけて見ていかねばならない。

※一人一人の子どもたちの困り感にアンテナをはり、寄り添いながら、見守っていく。学校全体で共通理解しながらいろいろな教職員の目で見ていく。

2 学力の向上(確かな学力の形成)について

□学力調査の結果も良好で、授業が分かると答えている児童が90%以上いるのは素晴らしいこと。ただ、わからない子たちへのケアはどうなっているのか。支援員の配置の要望などはしているか？

※支援員は配置になっていない。生き生きサポーターが週12時間配置になっており、算数科を中心につまずきのある子たちに指導してもらっている。水曜日のとりごえっ子チャレンジタイムでは管理職が、担任と相談しながら特に個別指導を必要な子に対して別室で指導をしている。これからもつまずきのある子に対してしっかりフォローしていきたい。

□自分の子どものころは、わかっている子が分からない子に対して先生役になって教えるということがあった。わからない子も、子どもの言葉なので分かりやすく、聴きやすいということもあったようだ。また、教えている子どもは、自信になりさらに成績が上がっていたように思う。

※教え合うということは大変効果的だと思う。授業の中でも様々な教科でペアやグループの相談タイムのような形で行っている。説明する力を育てるという観点でもこれからも工夫しながら取り組んでいく。

3 向上心の向上(豊かな心の育成)について

□自己肯定感やエネルギーが伝染するという話を聞いている。中学校でも力を入れている。ぜひ保・小・中連携して引き続き取り組んでいきたい。

□家庭で褒められる・認められると子どもたちはとてもやる気が出る。学校での褒める認める取り組みはとても良いと思う。

□保育園では、ボディークラウドやスキンシップが子どもに安心感を与え自己有用感を与えられると思っている。昨今学校ではなかなか難しいと思うがハイタッチをするなどという子どもとの触れ合いも大切にして頂きたい。

□先生方のモチベーションはどうか。忙しくて疲れているという新聞記事を見るが鳥越小学校の先生方は元気ですか？先生方の元気な声かけが雰囲気を作ると思うので。



学校関係者評価委員会